

第9回ダムによらない治水を検討する場 説明資料

(今後の議論の進め方について)

平成23年9月5日

国土交通省 九州地方整備局

流域の中で、特に中流地区や人吉地区においては、直ちに実施する対策後においても、決して十分な安全性が確保される状況ではないことを踏まえ、「市房ダムの有効活用」、「遊水地」、「川辺川の段階的築堤」等、下流に負荷をかけることなく、**全体で水位を下げる対策についてまず検討する。**



市房ダムの有効活用等の検討結果を含めた対策後の水位の状況について、上位12洪水で確認。**既往の第何位の洪水まで対応できるのかについて共有する。**

検討するにあたっての主な視点

球磨川の河川特性

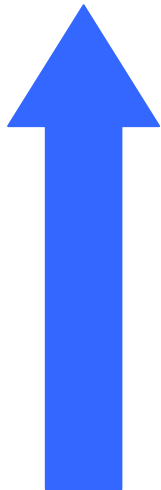
- ・ 上流は盆地、中流は山間狭窄部、下流は平野
- ・ 急流河川

地域社会への影響、実現性

- ・ 土地所有者の協力
- ・ 法制度上、技術上の観点からの見通し
- ・ 地域間の利害の衡平
- ・ そのほか関係者との調整の見通し
- ・ 事業地及びその周辺への影響
- ・ 環境への影響

コスト(合理的な投資となっているか)

- ・ 完成までに要する費用
- ・ 維持管理に要する費用
- ・ 費用対効果



貯留施設、河道対策を含めた対策後の水位の状況について、上位12洪水で確認。**既往の第何位の洪水まで対応できるのかについて共有する。**



を踏まえて、掘削、嵩上げ等、**河道の流下能力を上げる対策について検討する。**

～ を繰り返し、対策をとりまとめるとともに、既往の第何位の洪水まで対応できるのかについて共有する。

より個別の地域の状況を踏まえ具体的に検討を進めるため実務レベルの「**幹事会**」を設置する